



# 食に触れて魅力を知ってもらおう

## in 飯豊・小国

### 【プロジェクトに取り組んだ理由・背景】

- ・自分の故郷である飯豊町と、小国高校に入学して小国町のことを知って、それを自分なりに魅力を伝えたい。
- ・自分が食に興味があったから。



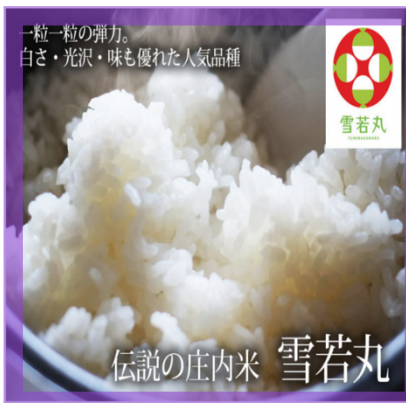
探求専用 Instagram  
で情報を発信

### 【プロジェクトを通して学んだこと】

- ・飯豊町の特産品・小国町の特産品、そして実際に調理した料理の情報を SNS で発信。見てもらうために工夫したことは、①#をなるべく沢山付ける、②自分が作っている様子を動画に撮る、③料理の場合は作り方を載せる。
- ・Instagram で発信した結果、27 人の方にフォロー（外国人の方含め）して頂いた。フォローはして頂いたけどコメントまではいただけなかったことが反省点。コメントを頂けるような工夫が必要。

### 【実施写真】

Instagram に投稿した特産品





# ボランティア参加者を増やす

## 【プロジェクトに取り組んだ理由・背景】

- ・高齢者が増えている世の中なので、高齢者を助けられる若者が増えたらいいなと思ったから。
- ・小さい子たちと一緒にできるボランティアを企画し、人との関わりや人の役に立っている活動を楽しんでもらいたいから。
- ・困っている人の声を集めて、子供たちに気づきを与え、自分の将来に繋がる経験をしてほしい。



りふれの木工館で  
かき氷作り！

## 【プロジェクトを通して学んだこと】

- ・ボランティア活動の調査から開始。コロナの影響で小国町のイベントがほとんどなかったが、担当の先生とコーディネーターがイベント情報を2件（りふれ木工館、キッズアートまつり）持ってきてくださり、ボランティアスタッフとして参加した。
- ・イベントの中で子供たちに声かけを行ったが、知らん顔されることもあった。どうやったら応えてもらえるのだろうか、先輩のスタッフを観察。疲れた顔一つせず、いつも笑顔で参加者と接している。子供たちにも分かりやすく説明していて、大人の姿勢は大事だと思った。
- ・ボランティアスタッフはイベント本番まで打ち合わせを重ね、参加者の安全を十分に配慮し、楽しくなる仕掛けをいくつも施していた。
- ・これから手形アートのイベント企画をやってみたい。

## 【実施写真】

りふれウォークラリー



キッズアートまつり





# 町資源の REBORN 大計画

## 【プロジェクトに取り組んだ理由・背景】

- ・小国町に形が残る何かを作りたい。誰かがしたいと思う何かの後押しになりたい。
- ・小国町には空き家が多いことを知って驚いた。その空き家を使って何かできないかと考えた。
- ・数年前まであった本屋がなくなったことを不便に感じた。また宿泊施設がほぼないため、人が来にくいのかなと思った。みんなが助かり、自分の「やりたい！」も入った「泊まれる本屋」を作りたい。

小国町ビジネスプランコンテスト  
起業×アイデア賞 受賞

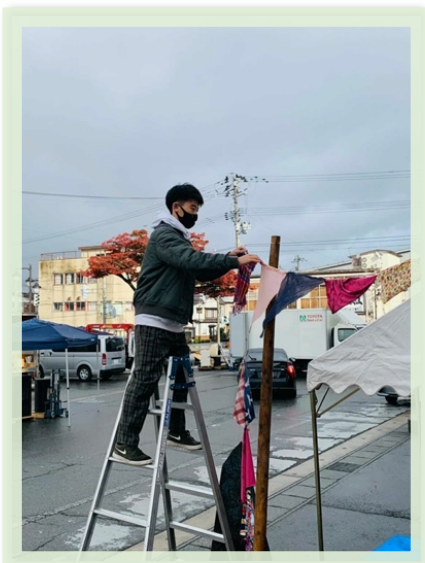


## 【プロジェクトを通して学んだこと】

- ・沢山の地域の大人との出会い・対話の中で新しいアイデアが生まれた。人脈が増え、協力者が増え、この町に居たいと思うようになった。
- ・マイプロジェクトで大切だと思ったのは「誰かのため」に固執しないこと。1人の町民として、自分にとって何があったらいいか。自分のしたいことをとことん楽しんだら、結果的に誰かのためになることを学んだ。
- ・地域みらい塾やビジコンに参加している地域の大人の本気度がすごかった（みんな町が好き）。

## 【実施写真】

再エネフェス



地域協働の様子





# 私の軌跡

## ～何もない町で1日限定高校生カフェを開くまでの道のり～

### 【プロジェクトに取り組んだ理由・背景】

当初取り組んでいた、テーマ1「子連れでゆったり出来る空間」とテーマ2「料理動画を SNS で配信」がどちらもピンとこなかった。料理系のテーマにしたいと思っていため、カフェをやりたい亜佑那 (No.16)と一緒に道の駅で高校生1日限定カフェをすることを決めた。

メニューをプレゼン・  
共同試作を実施

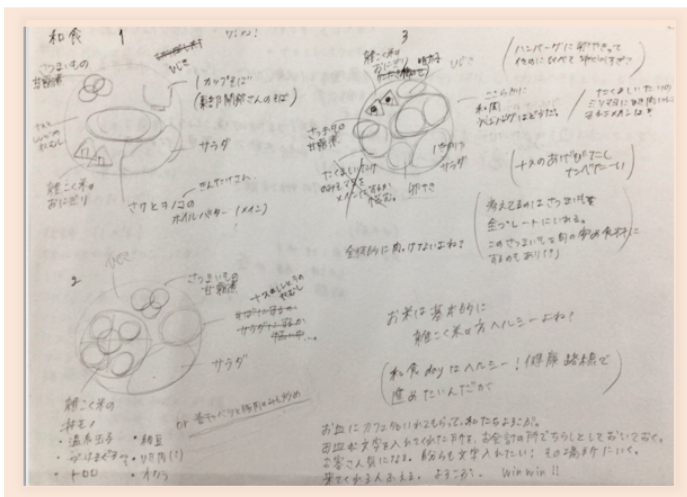


### 【プロジェクトを通して学んだこと】

- ・ いろんなテーマを経験してきたからこそ、自分に合ったテーマを探求することができた。
- ・ このテーマを実行していなかったら関わることのなかった方、知ることのなかった知識が増えた。
- ・ カフェ当日は40食が完売。お客さんから「とても美味しかった」「これを期間限定や土日限定でメニュー化してほしい」「高校生が考えたとは思えないレベル」「冬だったらもう少し温かいメニューがあるといい」といった感想をいただいた。
- ・ 終わった後は、もっとやりたいと思うようになった。
- ・ 活動内容が山形新聞に掲載され、山形大学の方からお声がかかり、今後小国の食材を使ったお弁当を共同販売することになった。
- ・ 和食の方が小国町の食材を使いやすく、今回は和食に決定したが、「OGUNI プレート」第二弾は洋食に挑戦。
- ・ 自分の楽しめることに大きさは関係ない。大きいことも小さいことも自分がやりたいことをやろうと思う。

### 【実施写真】

OGUNI プレート第一弾 デザイン



カフェ当日の調理室の様子





# 道の駅で昆虫展覧会

## 【プロジェクトに取り組んだ理由・背景】

当初のテーマは「恐竜の化石を発掘したい」だったが、小国で発掘できるか分からなかったため、自分の好きな昆虫について探究し、魅力を発信することを決めた。

小国の昆虫に魅せられて  
30年の方にインタビュー



## 【プロジェクトを通して学んだこと】

- ・小国町にいるカブトムシ・クワガタについて詳しい方に話を聞き、すぐにでも実際に見てみたい、捕まえてみたいと思ったが、小国町でクマの目撃情報が相次ぎしばらくの期間自粛した。
- ・採集したカブトムシを展示して魅力を知ってもらおうと思い、8月いっぱい道の駅に展示させてもらった。展示してみてわかったことは、自分が思っていたより、カブトムシに興味を持ってくれる人が多かった。カブトムシを売って欲しい！と言う方や、すごい！と褒めてくれる方が居るととても嬉しかったし、びっくりした。

## 【実施写真】

ボクが小国町で  
採りました！！

小国高校2年生 Y.S



### 【小国高校 Y.S さんの探究学】

Q. 道の駅にカブトムシを置いた理由は？

A. 道の駅は小国で一番魅力を発信できる場所だと思ったからです。小国高校が実施する「白い森未来探究学」で自分の好きなプロジェクトを一人一つ進めています。ボクは昆虫が大好きなので、昆虫の魅力を伝えるプロジェクトを始めました。

Q. どんな人に見て欲しい？

A. 昆虫が好きな人にも嫌いな人にも見てほしいです。特に夏休み中の子供たちを楽しんでもらいたいです。

Q. 昆虫のどんなところが魅力？

#### ① 成長の過程～三令幼虫～

まず同じ親から生まれても、最終的に大きさが違うところです。卵の大きさからでは予測できません。1シーズン累代飼育を経験すれば1令、2令、3令の違いはすぐわかるようになりますが、初めての年、初めて目にする幼虫がはたして「何令」なのかは分かりにくいものです。

しかし、下の写真のように並べてみれば一目瞭然。見分けるポイントは「幼虫の大きさ」につきます。カブトムシは、卵からかえったあと、4回脱皮して成虫になります。

[卵] → 孵化 → [1令] → 脱皮 → [2令] → 脱皮 → [3令] → 脱皮 → [蛹] → 脱皮 → [成虫]

このようにカブトムシの幼虫期間は、卵からかえってすぐの1令、1令が脱皮して一回り大きくなった2令、幼虫時代最後の3令の3段階あります。幼虫の段階でどれだけ餌を食べられるかで成虫になった時の大きさが決まります！



### ② 成虫になってからの鑑賞～昆虫プラネタリウム～

飼育ケースで環境さえ整えれば、小さな自然の世界を部屋の中で楽しむことができます。成虫のカブトムシはなんといっても“格好良い”！クワガタと違ってケースの中で飛び回っていて非常に活発な昆虫です。



### ③ 小国町の昆虫～採集には最高の場所～

ボクがこのカブトムシを採取したのは、叶水地区のとある橋の街灯です。小国町は昆虫採集に最高の場所です。特にクワガタの種類が非常に豊富！ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、コクワガタ、そして日本でもかなり希少なアカアシクワガタが生息しています。この夏休み、是非小国町で昆虫採集してみてください！





## 芸術であふれた町に

### 【プロジェクトに取り組んだ理由・背景】

最初のテーマは「小国町の人口増加」だった。しかし「本当にやりたいことは何なのか」「自分の好きな音楽と美術をしたい」と考え、このテーマに至った。

毎月実施した  
鉛筆画の活動



### 【プロジェクトを通して学んだこと】

- ・音楽活動は、小玉川のゲストハウス・レコーディングスタジオを運営されている前田さんにインタビューし、「夢中になれることを見つけること」「人生において大切なものは友達と情熱」とアドバイスいただいた。
- ・芸術活動は、アート活用地域活性化事業を行っている Studio こぐまの本間さんと毎月2回鉛筆画の活動を実施。この活動をして、物の見方が変わった。例えば物は、光の当たり加減で色が変わってくる。物に名前を付けた人、デザインした人、それを作った人、色んな歴史が詰まっている物がいっぱいあることに気づけた。
- ・この世界には、やってみなければわからないことしかない。
- ・この世界に存在するものはカッコいい。
- ・小国町がみんなそれぞれ好きなものを好きなように表現できる町になって欲しい。好きなものや身近にあるものを絵に表現することは楽しい。
- ・みんなが思っている「いいな」を好きなように表現して自由に展示・発表できる場（例えば、自分で作った曲を披露、自分の絵や小説を展示し共有できる場）を増やしたい。

### 【実施写真】

小国町の芸術祭で作品を展示





# アニメの魅力を効果的に伝えるには

## 【プロジェクトに取り組んだ理由・背景】

- ・アニメを見ることが趣味で、面白さや良さを知ってもらいたいと思ったから。
- ・アニメを毛嫌いしている人のイメージを払拭したかったから。

アニメの魅力発信  
動画を作成



## 【プロジェクトを通して学んだこと】

- ・小国高校の全校生にアンケートをとり、アニメを好きな人はどの学年も5割以上、全校生だと6割以上もいることがわかった。人気のジャンルはコメディ・ファンタジーで、「現実ではあり得ないような話だから面白い」といった意見があった。
- ・アニメの魅力発信動画を作成し、YouTubeでアップロードしたが、文章が多く面白みに欠けていた。また簡易的な編集ばかりで見栄えのいい動画を作れなかった。反省を踏まえ、最近見たアニメの感想・レビューをTwitterで発信。フォロワーが200-300人増加し、共通の趣味を持つ人と繋がれた。じっくり時間をかけて文章を考えたから相手の心に響いた。
- ・見る人の心に響く伝え方について少し理解できたと思う。また自分はどんなものが好きなのかを振り返る良いきっかけになった。これからも活動を続け、アニメのイメージを変えるきっかけになれば嬉しい。

## 【実施写真】

アニメのレビューを  
SNSで発信

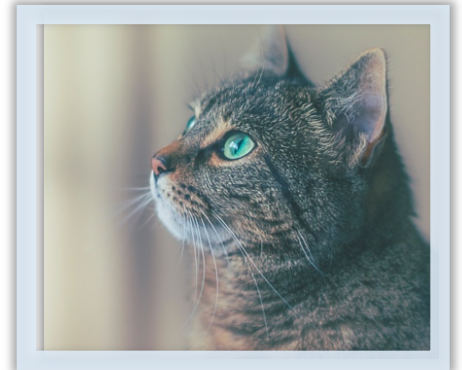




## 野良猫カフェを作りたい

### 【プロジェクトに取り組んだ理由・背景】

- ・志村どうぶつ園という番組で、捨てられた猫、震災で飼い主が分からない猫を見たから。また道を歩いている時に痩せ細った猫を見たから。
- ・小国町では野良猫に対してどんな対策をしているのだろうと調べたら、何も対策はされていなかったから。
- ・野良猫カフェは、ただカフェをするのではなく、気になった猫を新しい飼い主に買い取ってもらうのが目的。



野良猫カフェにも  
資格が必要

### 【プロジェクトを通して学んだこと】

- ・野良猫カフェをするには資格が必要だったため断念。資格は「動物取扱責任者」と「動物取扱業」があり、国家資格ではなく一定の条件を満たせば取得できる。その条件とは「猫カフェやペットショップなどで半年間アルバイト」「第一種動物取扱業の種別に係る知識及び技術について1年以上学ぶ」こと。
- ・小さな呼びかけでも、少しでも小国町の皆さんに伝わると良いなと思った。

### 【実施写真】

